

令和4年度 瑞穂野北小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の教育」を基盤とし、豊かな人間性を持ち、自ら学び正しい判断力と実践力を身に付けた、健康でたくましく生きる児童を育成する。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

誰もが安心感の中で成長し、主体的に学び活力あふれる学校づくりをするために、全職員は自己研鑽に励んで専門性を高め、互いにチームとして支え合うとともに、保護者や地域と協働し、特色ある教育活動を推進する。

「子供たちが安心感の中で成長する学校」「学びの面白さを実感できる学校」

「教職員が学び続ける学校」「地域とともにある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 安心と成長の場となる学校をつくる
 - ・ 温かい人間関係の下、児童一人一人のよさと可能性が生かされ、行きがい・居がいのある学校作りに努める。
- (2) 成長し続けるための基盤を培う
 - ・ 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成のために、教材や ICT 等を効果的に活用しながら、分かる授業・知的好奇心を喚起する授業・主体的に学び合う授業づくりに努める。
 - ・ 認め・褒め・励ます指導により、自信や自己有用感の向上を図るとともに、道徳教育の充実を図り、困難に負けない強さと他への思いやりの心を育てる。
 - ・ 運動を通して体力の向上を図るとともに、心身ともに健康に生活できる習慣の定着及び危機回避能力の育成に努める。
- (3) 未来を生き抜く力を養う
 - ・ 社会の一員として生きていく基礎を培うため、英語教育や情報活用能力等の現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するとともに、人権、環境等の持続可能な社会づくりに向けた意識の涵養に努める。
- (4) 多様な児童の状況に応じた指導・支援を行う
 - ・ 一人一人の教育的ニーズに対応するために、多様な学びの場を提供できるようにするとともに、教職員の指導力の向上を図る。
 - ・ 関係職員が情報を共有するとともに、家庭や地域、諸機関と連携し、いじめや不登校対策を強化する。
- (5) 学校のチーム力の向上を図る
 - ・ 新たな教育課題に積極的に取り組み自己研鑽に努めるとともに、互いに学び合い、応え合える学校組織を作る。
 - ・ 教職員が、心身ともに健康な状態で職務を遂行することができるよう、健康管理に留意するとともに、勤務時間を意識した働き方を推進する。
- (6) 地域とともにある学校づくりを推進する
 - 体験活動や交流活動を通して地域を愛する心を育てるとともに、社会に参画する意識と協働する態度を育てる。
 - ・ 児童の育成について思いを一つにし、家庭・地域と連携しながら、信頼される学校作りに努める。

[瑞穂野地域学校園教育ビジョン]

9年間の連続した学びの中で、生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育 ～小中連携による小学校高学年における教科担任制の推進～

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ・ 知・徳・体の調和のとれた児童の発達を目指すため、各教科・道徳科・外国語活動・総合的な学習の時間及び特別活動の相互の学びの関連を図りながら、児童の実態と特性を十分配慮し、心身共に健全な育成を図れるような編成を行う。
- ・ 地域学校園教育ビジョンである『生きる力』を育む教育課程となるよう、9年間の学びの連続性を考慮した編成を行う。
- ・ 保護者や地域住民の願いを踏まえ、本校の教育の目指すところを共有し、地域の教育力が生きる編成を行う。

(2) 留意点

- ・ 昨年度の各種調査等の結果を踏まえ、知・徳・体の課題を明確にして指導の重点化を図る。
- ・ 教科横断的な視点を持ち、各教科の学習内容に関連する道徳科・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動の実施内容や時期を考慮する。
- ・ 地域の教育資源を把握し、教育活動の中に積極的に取り入れる。
- ・ 地域学校園児童生徒の課題から、今後育てていきたい力を明確にし、共通実践等を取り入れる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【 学 校 運 営 】</p> <p>○小規模校の特色や地域の教育資源を生かした教育活動，小中が連携した継続的な教育活動により，地域とともにある学校づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の内容を見直し，効率化を図ることで，児童とともに過ごす時間を大切にするとともに，教職員がもてる力を有効に発揮し，協働する学校づくりに努める。 <p>【 学 習 指 導 】</p> <p>「知的好奇心を喚起し，主体的に学び合うとともに，学習内容が確実に定着する授業の工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『宇都宮モデル』を活用した授業改善を推進する。 ・端末機器を活用した授業を実践し，教科の学びを深める。 ・安心して考えを伝え合い，互いに高め合える学級集団づくりを目指す。 <p>【 児 童 生 徒 指 導 】</p> <p>「自信をもって活動し，困難に負けないたくましい心をもった児童の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童のよさを見取り，「認め・褒め・励ます」指導を実践する。 ・課題を克服する充実感や達成感を味わわせたり，粘り強さや自律心を育む学習活動を工夫したりする。 <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <p>「生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しみ，自己の運動能力の向上を目指そうとする意欲を育てる。 ・自分の成長や健康に関心を持ち，生活習慣や食習慣の改善を図ろうとする態度を育てる。 ・自分たちを取り巻く様々な危険に対する理解を深め，危険を予測・回避する能力を育てる。
--

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児	<p>A 1 児童は，進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「児童は，授業中，話をしっかりと聞いたり，発表したりするなど，進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児 童 90%以上</p>	<p>① 基礎的な学力を定着させるため，反復学習や話し合い・発表の場を意図的に設定する。</p> <p>② 学年の発達段階に応じて，学習習慣や発表の仕方を指導することで，児童が自信をもって学習に取り組めるようにする。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は95.9%で，数値指標を上回った。 ・本年度は，学校全体で，既習事項を基に様々な方法で考えることに重点を置いて指導したことにより，児童が主体的に学習に取り組めるようになってきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き，学年の発達段階に応じた指導・支援を行うことで，主体的に学習に取り組めるようにしていく。
	<p>A 2 児童は，思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 自信や自己有用感の向上を図るとともに，道徳教育の充実を図り，生命及び人権を尊重する心や，人を思いやる心を育む。</p> <p>② 児童会活動や縦割り班活動等を通して，相手の立場を考えて思いやる心を育む。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は90.1%，教職員の肯定的回答率は100%で，ともに数値指標を上回った。 ・児童同士の関係性を構築できるような学級運営や，全教職員による日常の声掛け・称賛などを行った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き，教職員が受容的な姿勢で児童に関わるとともに，児童が互いに認め高め合う活動を計画的に行っていくよう努める。

<p>児童の姿</p>	<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 「瑞北小の一日」をもとに、きまりやマナーの意味や大切さについて、全職員が同一歩調で指導にあたる。</p> <p>② きまりやマナーを守って行動している姿を、児童が相互に認め合う場や教職員が称賛する機会を数多く設け、意識付けしながら実践意欲を高めていくようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は93.4%、保護者の肯定的回答率は94%で、ともに数値指標を上回った。 日頃から児童に対して、学校生活や家庭生活の基本的な生活習慣が身に付けられるよう、学校全体で指導することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童自らきまりを守る意識がさらに高まるよう、児童会からそれぞれの立場で全校に発信する機会を継続的に行えるようにする。
	<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 地域学校園内の学校と情報を共有しながら、代表委員会が主体となって「あいさつ運動」を実施し、意識を高める。</p> <p>② 自ら進んであいさつすることや、時と場にふさわしい言葉遣いについて、家庭での指導の協力を保護者に働きかける。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的回答率は89.3%で、数値指標を上回ったが、教職員の肯定的回答率81.3%で、数値指標を下回った。 校内において、時と場に応じた言葉遣いに課題が見られるため、指標が下回ったと考えられる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつについては、引き続き学校で意識付けを図る取組を行いながら、家庭や地域と連携し、あいさつ運動等を行っていく。 時と場にふさわしい言葉遣いができるよう、機を捉えて全教職員が児童に声掛けや支援を行うよう努める。
	<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「夢や目標に向かって、あきらめずに粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。</p> <p>② 道徳科の授業等において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に繋げられるように促す。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は86.8%、教職員の肯定的回答率は100%で、ともに数値指標を上回った。 児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、児童との関わりを通し、児童の思いを尊重しながら明確な目標をもつことができるよう働きかけたり、目標を達成するための手立てを助言したりすることで、児童一人一人の意欲を高め達成感を味わわせるようにする。教職員は、努力の過程を称賛し、児童とともに達成の喜びを味わうようにする。

<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるように、各教科・学校行事等と関連を図った保健指導や日常の指導を行う。</p> <p>② 児童が栄養バランスの取れた望ましい食習慣を身に付けることができるように、栄養士との連携のもと、学校給食や各教科との関連を図った指導を行う。</p> <p>③ 児童が危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常における安全指導を充実させるとともに、交通安全教室や避難訓練等を計画的に実施する。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は94.2%、教職員の肯定的回答率は93.8%で、ともに数値指標を上回った。 健康や安全に関する日頃の教職員の指導の積み重ねや、児童会からの健康や安全を意識した情報の発信などにより、学校全体の意識が保たれたと思われる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるように、衛生面の注意喚起をはじめ、各教科・学校行事等と関連を図った保健指導や日常の指導を行う。 児童が危機を予測し自らの命を守り抜く判断力と行動力を育成するため、日常における安全指導を充実させるとともに、交通安全教室や避難訓練等の内容を工夫し、計画的に実施する。
<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 学習の場や、学校生活全般で、継続することの大切さを知り、夢や目標をもつことの良さを実感できるように指導を行う。</p> <p>② 各教科や総合的な学習の時間等を通して、社会との繋がりを感じたり、将来に対する夢や目標をもったりすることの大切さを感じられるよう指導を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は86.8%で、数値指標を上回った。 普段の学校生活において、学習への取組や行事等への参加の際にキャリアパスポート等を活用することで、夢や目標への繋がりを意識させることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育等を通して、社会に貢献できるよう努力する資質を育てるために、児童が自分のよさを知り、明確な目標をもって行事や学習に取り組めるよう、内容や場の設定を工夫する。
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、ALTを活用し、英語に触れる機会の充実を図る。</p> <p>② 外国語活動に関する校内研修やチーム学校として協働して指導を行う。</p> <p>③ 児童が、英語を使って自分の気持ちや考えなどを適切に伝えることができるよう、教員自身が積極的に英語を使うようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は91.7%、教職員の肯定的回答率は100%で、ともに数値指標を上回った。 外国語が教科として定着し、児童も教員も積極的に英語を使うことを習慣付けることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後もALTを活用し、英語に触れる機会の充実を図るとともに、児童が進んで英語を使う場を設けていく。 校内研修を行い、指導方法について学ぶ場を設け、授業の中で教員自身が積極的に英語を使うようにしていく。

<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、総合的な学習の時間、宇都宮学の授業や校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が郷土への愛情と誇りをもてるよう指導の充実を図る。</p> <p>② 校内研修などで、教師自身が地域の教育資源や資料等について理解を深められるよう努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は87.6%で、数値指標を上回った。 町探検等の校外学習や出前授業等において、宇都宮の良さについて学習することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、校外学習等で宇都宮の良さに直接触れる機会を設けるとともに、校内研修等で教職員自身が地域の教育資源や資料等について理解を深め、授業に生かせるよう努める。
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① GIGA構想に伴い、一人一台端末を文具の一つとして、授業はもとより日常的に活用できるようにする。</p> <p>② プログラミング教育について、校内研修等により、教職員が児童に適切に指導できるような実践力を身に付ける。</p> <p>③ 図書便り等の発行を通して、児童の図書利用の様子を保護者に伝える。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は93.4%、教職員の肯定的回答率は100%で、ともに数値指標を上回った。 ICT支援員を活用し、ICT活用に関する校内研修を実施して教職員自身のスキルアップを図ったり、ICT機器と図書を併用して活用するよう児童に働きかけたりしたことで、児童が場面に応じてタブレットを活用できるようになった。 今年度は、図書室に英語の本を増やし、授業に活用することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器と図書の適切な使用方法を授業等で指導するとともに、家庭と連携しながら情報モラルについても指導するよう努める。
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童（生徒）は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 自分たちの生活と地域の方や高齢者とのつながりに気付かせ、感謝の気持ちを表す機会を設けることで、感謝する心や相手を思いやる心を育む。</p> <p>② 道徳科の授業等を通して、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心を涵養する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は90.1%、教職員の肯定的回答率は100%で、ともに数値指標を上回った 学校支援ボランティアとの活動を実施できたことで、児童が多くの人との関わりをもつ機会が増えた。また、児童が日頃お世話になっている方々に感謝を伝える機会を設けることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校支援ボランティアと触れ合う機会や道徳科の授業等を通して、感謝の気持ち表すことの大切さを伝えていく。

	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 各教科においてSDGs等に係る現代的な諸問題に対応できるよう、問題解決的な学習の充実を図る。</p> <p>② 児童が安全教育への関心を、実感を伴って高めることができるよう、学級活動の内容や避難訓練を工夫して実施する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は87.6%、教職員の肯定的回答率は87.5%で、ともに数値指標を上回った 各教科においてSDGs等の諸問題について学習し、理解を深めることができた。 児童や教職員が臨機応変に対応できるよう、避難訓練を工夫して実施した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業等において、自分達の生活をSDGsの視点で考える機会を設ける。 引き続き、学級活動の内容や避難訓練の方法を工夫する。
	<p>B1 児童は進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「休み時間や放課後などに進んで運動している。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 体育科の授業や特別活動等を通して、様々な種類の運動の面白さを味わえるよう、指導方法を工夫する。</p> <p>② 児童が使える道具の置き場や借り方を明確にするなど環境を整備し、自主的な運動を促す。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は80.2%で、数値指標を下回った。 本校では、屋内での活動（読書等）を好む児童がもともと多い傾向にあるが、それに加えてコロナ禍により屋内で過ごすことに慣れてしまったために、外に出て運動する意識が低くなってしまったことが主な要因だと思われる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、業間や昼休みの外遊びを推奨したり、縦割り班活動等で遊び方の紹介を行う機会を設けたりして、進んで運動する意識を高めるよう働きかける。
<p>目指す学校の</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>○① 特別支援コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>○② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の指導計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の肯定的回答率は100%で、数値指標を上回った 特別な支援が必要な児童について、全職員で共通理解を図り、個に応じた支援を行うことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援を必要としている児童に対しては、今後も特別支援コーディネーターと担任が連携し、迅速かつ組織的な対応に努めていきたい。

<p>姿</p>	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方はいじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>○① 学級活動や道徳科、児童会の「いじめゼロ集会」の実施など、教育活動全体を通していじめを許さない指導の徹底に努め、ホームページや各種たより等で学校の取組の様子を発信する。</p> <p>○② 年4回実施する学校生活アンケートや年2回行う教育相談を通して、児童の心の様子に共感し、学校いじめ防止基本方針に基づきながら組織的な対応を行い、早期発見、早期対応、早期解消を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は99.2%で数値指標を上回ったが、保護者の肯定的回答率は75.4%で、数値指標を下回った。 児童の見取りや情報共有を全教職員で行い支援に当たるとともに、学校生活アンケートやおしゃべりタイムを実施したことにより、児童肯定的回答率は99%に達したが、保護者への発信には課題があったと思われる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、全教職員が児童の様子を見取ってきめ細かな指導・支援に当たるとともに、児童会による「いじめゼロ集会」を実施するなど、継続的にいじめについて考える機会を設ける。 いじめアンケートや教育相談等を活用し、迅速に対応できるようにする。また、学校と家庭の連携を密に図り、児童の小さな心の変容に気付けるようにする。 ホームページや各種たより等で、児童の日頃の様子を発信していく。
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童（生徒）がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感が高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努め、保護者にも児童のよい行いを発信する。</p> <p>② 教育相談、学校生活アンケート、Q-U調査の結果を活用し、不適応傾向にある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報の共有を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は97.5%、保護者の肯定的回答率は88.3%で、ともに数値指標を上回った。 教育相談や学校生活アンケートなどを活用して児童一人一人に寄り添う支援を行い、保護者とも連携を密に図った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、全教職員で児童を認め励まし、児童の自己肯定感を高められるよう努める。 教育相談、学校生活アンケート、Q-U調査の結果を活用しながら、日常の指導・支援に当たる。
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>② 児童が、互いの国籍や文化の違い等を認め合い尊重しながら生活できる態度を育てる。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の肯定的回答率は100%で、数値指標を上回った。 特別な支援が必要な児童について、全職員で共通理解を図り、個に応じた支援を行うことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の状況に応じて、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行っていく。

<p>A 17 学校は、活気があり、明るくいいききとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上</p>	<p>① 個人にめあてをもたせ、目標に向かって主体的に取り組む学級集団づくりに努めるとともに、一人一人の頑張りを認める機会を設ける。</p> <p>② 児童の願いや思いを生かした学校行事を計画したり、縦割り班活動の場を設定したりして、児童が意欲的に参加できるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は95.0%で、数値指標を上回った。 コロナ禍においても、内容を精選・吟味し、委員会主催のイベントや学校行事等を行ったことにより、児童の活躍の場が増え、学校生活への期待と意欲が高まったと考えられる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も、より児童が主体的に活動できる場を設定するとともに、互いのよさを認め合う雰囲気づくりを行うことにより、学校生活への意欲を向上させていきたい。
<p>A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 学習課題や解決への見通しをもたせ、課題解決にじっくり取り組めるよう、発問や学習課題を工夫する。また、終末には、身に付けた内容を整理し本時の学びを振り返ることができるようにする。</p> <p>② かがやきルームや学力向上担当者との連携を図り、一人一人に対応した指導に努める。</p> <p>③ 日々の授業や習熟度別での学習、かがやきルーム、チャレンジタイムの様子などを、学年だより等で知らせたりホームページで公開したりするなどして、積極的に発信していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的回答率は93.4%で、数値指標を上回った。 本年度は、学校全体で、既習事項を基に様々な方法で考えることに重点を置いて指導したことにより、児童が主体的に学習に取り組めるようになってきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学習課題や解決への見通しをもたせ、課題解決にじっくり取り組めるよう、学習課題や発問等を工夫して授業を行う。また、終末には、身に付けた内容を整理し、授業の学びを振り返ることができるようにする。 単元全体の見通しをもち、目的に合った学習形態（一斉、個別、ペア、グループなど）を計画的に位置付けるようにする。
<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 「チーム瑞北」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら一丸となって取り組むよう努める。</p> <p>② 教職員の協働性を高めることに視点を置き、教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気を大切にしよう。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の肯定的回答率は81.3%で、数値指標を下回った。 それぞれ担当業務に真摯に向き合い、互いに声を掛け合ったり助言し合ったりしながら協力して取り組んでいるが、所属意識をもった取組に課題があると考えられる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップの下、それぞれの教職員の力を生かしながら、本校の目指す児童像の達成に向けて、ベクトルを一つにして取り組むよう努める。

<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 学校の働き方改革の視点に立って、教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。</p> <p>② 教職員の負担軽減と新型コロナウイルス感染症防止の観点を踏まえて、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。</p> <p>③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答率は93.8%で、数値指標を上回った。 ・働き方改革の視点に立ち、教職員それぞれが計画的に担当業務を進めたり、校務におけるICTの活用を図ったりしたことで、業務の効率化が図れた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の趣旨を確認し、業務の効率化を行うことにより、一層児童に向き合う時間を確保できるよう努める。
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」における肯定的回答 ⇒5・6年生児童 85%以上</p>	<p>○① 瑞穂野地域学校園ビジョンに基づき、生きる力を育てる取組を重点として小中一貫教育・地域学校園を推進する。</p> <p>○② 乗り入れ授業、各分科会、6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にするとともに実施方法を工夫して、小中間で情報交換を積極的に行う。</p> <p>③ 小中共通のあいさつ運動週間を設定するなど、間接的な交流も含めた小中共同の取組を工夫する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5・6年生児童の肯定的回答率は92.3%で、数値指標を上回った。 ・コロナ禍においても、小中一貫の取組（乗り入れ授業、あいさつ運動、統一お弁当の日、進学先中学校訪問等）を実施したことにより、児童が参加する場が増え、児童の意識が高まったと考えられる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫の目的や活動について分かりやすく発信するとともに、瑞穂野地域の4校が連携を密にして各活動の充実を図るよう努める。
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>○① ふれあい活動を通じた地域の方との交流や学習におけるボランティアとの交流の機会を、可能な方法を探りながら設定し、体験を通じた望ましい人間関係の育成を図る。</p> <p>② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、状況を踏まえて学校支援ボランティアを活用する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答率は92.3%、地域住民の肯定的回答率は90.9%で、ともに数値指標を上回った。 ・コロナ禍においても、感染症対策を講じながら、体験活動や交流活動を工夫して実施したことにより、保護者やボランティアとの交流の機会が増えたことが要因であると考えられる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き、保護者や地域と協働しながら、教育活動の充実に向けていく。

<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>○① 地域の方との交流の機会を各学年に応じて可能な範囲で設定し、様々な体験を通して望ましい人間関係の育成を図る。</p> <p>② 校外での体験活動時の安全確保や、授業時の支援などへの協力、参画を得て、状況を踏まえて学校支援ボランティアを活用することを通して、教育活動の充実を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的回答率は92.3%、地域住民の肯定的回答率は90.9%で、ともに数値指標を上回った。 コロナ禍においても、感染症対策を講じながら、ボランティアによる授業支援や環境整備等を実施したことにより、ボランティアの活躍の機会が増えたことが要因であると考えられる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も引き続き、地域の教育力を生かせるよう情報の発信やボランティアの募集等を行い、地域と共に児童の健全な育成に努める。
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 90%以上</p>	<p>① 毎月、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>② 避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事・地震・竜巻・洪水・不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的回答率は90.9%、教職員の肯定的回答率は100%で、ともに数値指標を上回った。 毎月の安全点検と日頃の巡視、危険箇所の迅速な修繕、児童へのアナウンス等を行い、安全確保ができた。また、安全で使いやすい物品等の配置を工夫して行った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、全教職員が日々の確認を行うとともに、毎月の安全点検や危険箇所の迅速な修繕を行う。 不測の事態に備えられるよう、様々な状況に応じた避難訓練を実施したり、児童の安全を守ることができる環境整備に努めたりする。
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① GIGAスクール構想に伴い、一人一台端末を文具の一つとして授業はもとより日常的に活用できるようにする。</p> <p>② プログラミング教育について、校内研修等により、教職員が児童に適切に指導できるような実践力を身に付ける。</p> <p>③ 学習に必要な図書のリストを作成し、授業で活用できるようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は93.4%、地教職員の肯定的回答率は100%で、ともに数値指標を上回った。 ICT支援員を活用し、ICT活用に関する校内研修を実施して教職員自身のスキルアップを図ったり、ICT機器と図書を併用して活用するよう児童に働きかけたりしたことで、児童が場面に応じてタブレットを使用することができるようになった。 今年度は、図書室に英語の本を増やし、授業に活用することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器と図書の適切な使用方法を授業等で指導するとともに、家庭と連携しながら情報モラルについても合わせて指導していく。

	<p>B 2 特別支援の理解を深めるため、積極的に情報を発信している。</p> <p>【数値指数】 全体アンケート「学校は特別支援教育についての情報を、積極的に発信している」 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 保護者に向けた特別支援教育理解推進啓発資料を作成し、適宜配布する。</p> <p>② 配付した資料を基に、懇談会や個人懇談、学年便り等で特別支援教育についての話題を取り上げ、保護者により一層の理解を深めてもらえるよう努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的回答率は90.2%で、数値指標を上回った。 内容を工夫して特別支援教育だよりを発行したり、いつでも保護者が相談できるような体制を整えたりした。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も継続して特別支援だよりの発行や、授業の公開を続けていく。
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B 3 学校は地域の教育力や縦割り班活動を生かし、豊かな心を育む教育活動の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「地域の人材・施設など地域の教育力や縦割り班活動を生かし特色ある学校づくりを進めている」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>○① 地域の方との交流の機会を各学年に応じて設定し、様々な体験を通して望ましい人間関係の育成を図る。</p> <p>② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを積極的に活用していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は94.2%、地域住民の肯定的回答率は100%で、ともに数値指標を上回った。 学校生活において、縦割り班による活動（清掃、クリーン作戦、共遊、縦割り班読み聞かせ等）の場を設定できたことで、児童やボランティアの触れ合う機会が増えたことが、数値の上昇に繋がったと考えられる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度は、さらに児童主体の縦割り班活動を充実させ、上級生は学校のリーダーとしての自覚をもって行動できるように、下級生は上級生から学ぶことができるように、学校全体で支援していく。
<p>課題等</p>	<p>B 4 児童は課題を解決するために、既習事項を基に様々な方法で考えようとしている。 (学校課題との関連)</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は授業で学習したことを使って、色々な方法で考えようとしている」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 校内研修等において、主体的に学習に取り組む児童の姿の具体を共有し、教職員の児童を見る目を高める。</p> <p>② 児童の考えや疑問を引き出すような課題提示や発問、問い返し等を工夫する。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は93.4%、教職員の肯定的回答率は93.8%で、ともに数値指標を上回った。 校内研修等において、主体的に学習に取り組む児童の具体的な姿を話し合い、授業に生かすことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、児童が主体的に学習に取り組めるよう、既習事項を基に様々な方法で考えることを重点的に指導していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【教育全体の状況について】

- ・全 29 項目中、25 項目について数値指標を達成できた。児童の様子についての項目では、A3「きまりやマナーを守った生活」、A2・A11「思いやりの心」、B4「既習事項を使って様々な方法で考える」において、特に良好な評価が得られている。また、学校の取組についての項目では、A15「児童を大切にしたい認め励まし合う学級経営」、A18「分かる授業・きめ細かな指導」、A22・A23「家庭・地域・企業等との連携・協力」、B2「特別支援教育の情報発信」、B3「地域の教育力や縦割り班活動を生かした特色ある学校づくり」において、特に良好な評価が得られている。
- ・学習や関する項目の児童の肯定的回答率は、A1「進んで学習に取り組む」が 95.9%、B4「既習事項を使って様々な方法で考える」が 93.4%と高い結果となった。また、A18「分かりやすい授業・きめ細かな指導」の保護者の肯定的回答率が数値指標を上回った。授業において、かがやきルームや学力向上担当者と連携を図って、一人一人に対応した個別の支援（取組）を行ったり、校内研修で主体的に学習に取り組む児童の具体的な姿を話し合い、授業に生かせるよう教員の指導力向上を図ったりしてきたことが効果を上げたと考えられる。
- ・A2「思いやり」、A3「きまりやマナーを守った生活」、A6「健康や安全に気を付けた生活」、A17「活気ある生き生きとした雰囲気」の項目において、全ての評価対象者で良好な結果を得られた。ただし、B1「積極的な運動」については、児童の肯定的回答率がやや低く、主に業間や昼休みの外遊びの機会に対する児童の参加率の低さが課題であると捉えられる。今後は、これまでの運動遊びの紹介や用具等の充実を充実させていくとともに、児童の健康な体づくりに向けて、教職員や縦割り班活動や体育委員会による体を動かす機会づくりや普段の外遊びの奨励を図っていきたい。
- ・家庭や地域との連携に関する項目については、保護者、地域住民の肯定的回答率がともに 90%以上となった。コロナ禍が続く中、感染症対策を講じながら体験活動や交流活動を工夫して実施したことが認められたと考えられる。今後も、家庭・地域・学校が協働して児童の健全な育成に努めていきたい。
- ・今回の良好な結果に繋がった取組については今後も継続していくとともに、今後も家庭や地域と連携しながら教育活動の充実に努めていきたい。

【評価の改善が見られた項目について】

- ・今回は、特に児童と地域住民の評価が高まった項目が多く見られた。
- ・A21「小中一貫教育」については、児童の肯定的回答率が昨年度より 12.3%高まった。小中合同あいさつ運動や中学校教員による小学校への乗り入れ授業（英語・家庭科）などの取組が充実したことによる結果であると考えられる。
- ・A5「粘り強い取組」、A7「夢や目標・社会貢献」については、児童の肯定的回答率が昨年度より 5.6%高まった。学級活動や総合的な学習の時間、キャリア教育等で、目先の目標が夢や目標に繋がるような指導や取組が充実したことによる結果であると考えられる。
- ・B3「地域の教育力・縦割り班活動」では、地域住民の肯定的回答率が昨年度より 10%上昇した。感染症対策を講じながら、ボランティアの方々に体験活動や交流活動等に参加していただいたことで、児童や学校の様子を知る機会が増えたことによる結果であると考えられる。また、地域協議会において、これまでコロナ対策で実施できなかった授業参観を今年度は 2 回実施したこと、会議において学校の取組の様子を工夫して発信したこと、委員による活発な意見交換を行ったことなどが、良好な結果に繋がったと考えられる。

【指標を下回った項目について】

- ・A4「時と場に応じたあいさつ」については、保護者の肯定的回答率が数値指標を上回ったものの、教職員の肯定的回答率が数値指標を下回った。児童に正しい言葉遣いを身に付けてほしいという教職員の期待が表れたものと考えられる。今後は、時と場に応じたあいさつや丁寧な言葉遣いについて、家庭との連携を図りながら継続して指導していきたい。
- ・A14「熱心ないじめ対策」については、児童の肯定的回答率は 99.2%と高い数値が得られたが、保護者の肯定的回答率が数値指標を下回った。学校では、全教職員による日頃の声掛けや情報共有、いじめアンケートの実施、児童会によるいじめゼロ集会などを実施してきているが、今後はより一層学校と家庭との連携を密に行い、保護者への発信をしてきたい。
- ・A19「職員全員の協力」については、それぞれが子供たちのために真摯に業務に向き合っているが、個々の力に任せてしまっていることに課題があると考えられる。今後は、校長のリーダーシップの下、本校の目指す児童像の具体を明確にして共有し、その実現に向けて協力を強固なものにしていくよう努める。

7 学校関係者評価

- ・今年度はボランティアが活動する機会が増えたことで、地域の方々が子供たちと多く関わることができたため、地域の評価に繋がったと考えられる。今後も、ボランティア活動の活性化が図れるとよい。
- ・子供たちが地域の皆さんに支えられていることに感謝している。多くの人たちとの交流の大切さを感じている。
- ・学習面については、教科担任制も導入されるとのことなので、さらに指導の充実が図れるとよい。
- ・授業参観をした際、先生方が授業の準備をしっかりと行い、子供たち一人一人に合わせて丁寧に指導・支援をする様子が見られた。
- ・A24「安全に配慮した環境づくり」については、竜巻や不審者対応など年4回の避難訓練が充実していることがよい。
- ・A21「小中一貫の取組」において、中1でのギャップをなくしていくのはよいことだと感じる。それと同時に、「中学校はこれまでと違うことがある」ということを子供たちに知らせるのも必要ではないかと思う。
- ・A4「時と場に応じたあいさつ」については、子供たちは言っているつもりでも、声が小さくて相手に伝わっていないことが考えられる。
- ・A10・A25「ICT機器や図書等の活用」については、タブレットを使った授業を参観したことがあるので、子供たちは学習にタブレットを使っていると思う。保護者にも、リーフレット等でその様子を発信するとよい。
- ・A14「いじめに対する取組」については、子供たちや教職員の肯定的回答率が高いことから、先生方は日々細やかな配慮をしながら子供たちの指導・支援に当たっていると思う。それを保護者に伝えるよう、発信の仕方を工夫するとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・児童の肯定的回答率で見ると、全体的に高い評価を得た項目が多い。学習面においては、児童の力を引き出したり伸ばしたりするために、校内研修や授業参観を通して教員自身の授業力向上を図ってきたことが、成果に繋がっていると考えられる。また、全教職員で児童の様子等を捉え、情報共有しながら日々支援を行ってきていることも、児童の安心感に繋がっていると思われる。今後も、学習面・生活面において、全教職員で児童一人一人に応じたきめ細かな指導・支援に努める。
- ・今回は特に、地域住民の肯定的回答率が高くなった。感染症対策を講じながら、児童がより多くの人たちと関わることができる活動を工夫して実施し、ボランティアの方々と触れ合う機会を多く設定できたことが要因であると考えられる。今後も、地域の教育力を生かしながら、学校・家庭・地域が協働して児童の成長に繋がる活動を行っていきたい。
- ・保護者に関しては、児童の肯定的回答率と大きな差が見られる項目が見られた。いじめ対策やICTの活用を含め、学校で行っている様々な取組について、保護者に伝えるような発信の仕方を工夫していきたい。
- ・児童の運動への意識と体力向上については、以前から本校の課題となっている。委員会活動や縦割り班活動を生かし、児童がバランスよく体を動かす機会を設けるよう努める。
- ・全教職員が本校の一員であるという所属意識をもって協力し合える組織となるよう、校長のリーダーシップの下、目指す児童像の具体を共有し、その実現に向けてベクトルを一つにして取り組むよう努める。

○小中一貫教育については、乗り入れ授業や中学校訪問、小中連携あいさつ運動などを実施したことにより、6年生児童の意識向上に繋がったと考えられる。今後も、地域学校園内の教職員が連携を図って児童や生徒の指導に当たることができるよう、本地域の児童生徒の伸ばしたい力や課題と見られることを共有し、より一層取組の充実を努める。また、6年生以外の学年の児童にも、小中の繋がりや小中一貫教育での取組の内容を伝えていきたい。